

2021年12月9日

年末年始(2021年12月23日~2022年1月3日)の旅行動向

- 国内旅行者数は1,800万人、対前々年比▲38.5%(対前年+80.0%)
- 地域観光事業支援も活用した都道府県内・近隣県への「エリアツーリズム」が主流
- 旅行に行きやすい雰囲気になった一方で、感染防止の意識も根付く
「部屋食や個室で食事できる施設を選ぶ」「少人数での旅行にとどめる」

12/18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1/1	2	3
土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	祝	日	月

← 調査対象期間(出発日基準) →

JTBは、「年末年始(12月23日~1月3日)に1泊以上の旅行に出かける人」の旅行動向見通しをまとめました。なお、今期も夏季同様、新型コロナウイルス感染症(COVID-19/以下新型コロナ)の世界的拡大により海外渡航が制限されているため、国内旅行のみを対象としました。本レポートは旅行動向アンケート、経済指標、業界動向や予約状況などから推計しています。

(図表1) 年末年始旅行動向推計数値

	2021-2022年末年始		2020-2021年末年始		2019-2020年末年始	
	推計	前年比	旅行実績に基づく再推計	前年比	旅行実績に基づく再推計	前年比
総旅行人数(延べ)						
国内旅行人数	1,800.0万人	180.0%	1,000.0万人	34.2%	2,926.6万人	97.9%
海外旅行人数	-	-	1.5万人	1.8%	82.7万人	108.8%
一人あたり旅行費用						
国内旅行費用	32,000円	97.0%	33,000円	103.1%	32,000円	94.1%
海外旅行費用			-	-	202,000円	99.0%
総旅行消費額						
国内旅行	5,760億円	174.5%	3,300億円	35.2%	1兆1,036億円	94.2%
海外旅行			-	-	1,671億円	107.7%
平均旅行日数	3.3日	▲0.4	3.7日	0.1日	3.6日	▲0.2

*総旅行人数は、延べ人数。一人あたり旅行費用は一人1回あたりの費用

*国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数(観光および帰省目的の旅行に限る)

*国内旅行費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む
支払費用は除く

*対前年比は小数点第二位以下を四捨五入

*海外旅行人数は出国者数(業務目的の旅行を含む)

*海外旅行費用は、燃油サーチャージ含む。旅行先での土産代等の現地

【旅行動向アンケート 調査方法】

調査実施期間：2021年11月16日~11月22日

調査対象：全国15歳以上79歳までの男女個人

サンプル数：事前調査10,000名 本調査1,498名

(事前調査で「年末年始に国内旅行に行く/たぶん行く」と回答した人を抽出し本調査を実施)

調査内容：2021年12月23日~2022年1月3日に実施する1泊以上の国内旅行

(帰省を含む。商用、業務等の出張旅行は除く)

調査方法：インターネットアンケート調査

<報道関係者からのお問合せ先>

JTB 広報室 03-5796-5833(東京) 06-6260-5108(大阪)

<現在の社会経済環境と生活者の動き>

1. 新型コロナウイルス感染症と旅行・観光の動き

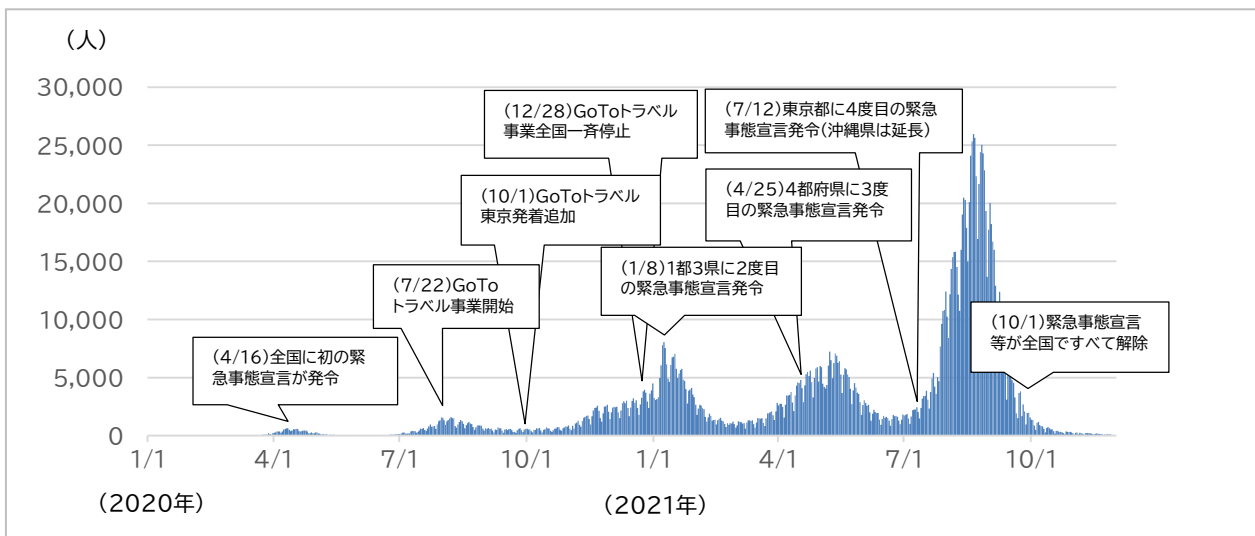
新型コロナが世界的に拡大してから 2 度目の年末年始を迎えようとしています。ワクチン接種が進むにつれ、新型コロナは一部の国・地域を除き下火に向かったように思われ、それまで滞っていた経済活動も多くの国と地域が新型コロナとの共存に踏み切り、活発化しました。

一方、新たな変異株であるオミクロン株が英国をはじめとする欧州や香港、日本でも検出されるなど、世界的に拡大する兆しがみられています。旅行分野においては、一時、国際航空便の再開やワクチン接種完了者を対象とする、到着地での隔離期間の短縮などの制限緩和が図られ、旅行促進が期待されましたが、新たな変異株で観光・旅行業が再び打撃を受けることが懸念されます。

日本国内では、首都圏などの大都市圏を中心に、1～9 月の大半において緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が適用され、旅行や外食、イベントなどに多大な影響を及ぼしました。新型コロナの感染者数は 8 月をピークに減少し(図表 2)、9 月 30 日に緊急事態宣言などが全面解除されました。国や自治体は感染対策を徹底しながらも、会食の人数制限やイベントの開催制限に対し、12 月からの解除を発表しました。また、旅行需要喚起策として期待されている「GoTo トラベル」は、来年以降の実施となることがほぼ決まっていますが、再開されるまでの代替として、県民割などの「地域観光事業支援」が 12 月 1 日現在、東京都を除く 46 道府県で実施しています。一方、安全・安心の旅行の実現を目指して実施した「ワクチン・検査パッケージ」の技術実証が行われ、その結果をもとに、観光庁が「旅行業・宿泊業におけるワクチン・検査パッケージ運用ガイドライン」を策定しました。

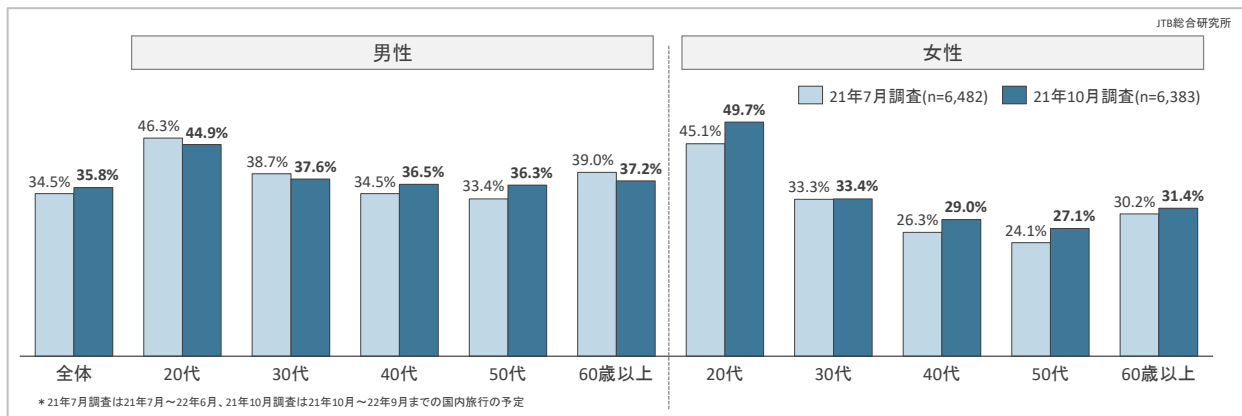
人々の旅行意欲に関しては、(株)JTB 総合研究所による緊急事態宣言解除直後の調査「新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化と旅行に関する調査(2021 年 10 月実施)」によると、「今後 1 年間に国内旅行を予定・検討している人」は前回調査(2021 年 7 月実施)から微増にとどまっており、不安や慎重な気持ちに大きな変化は見られないようです(図表 3)。安全・安心に向けた様々な取り組みが旅行意欲の向上につながることを期待されます。

(図表 2)日本国内の新型コロナ感染者数の推移



厚生労働省「PCR 検査陽性者数(単日)」データをもとに JTB 総合研究所作成

(図表 3) 今後 1 年以内に国内旅行を予定・検討している割合(21 年 7 月・10 月調査比較) (単数回答)



JTB 総合研究所「新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化と旅行に関する調査(2021 年 10 月実施)」

2. 旅行やレジャー消費をとりまく経済環境と生活者意識

2021 年 11 月の政府の月例経済報告によると、景気は「厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、引き続き持ち直しの動きに弱さがみられる」となっており、回復にはまだ時間がかかりそうです。しかしながら、個人消費は 10 月から上方修正されており、今後の消費拡大が期待されます。総務省の「家計調査」においては、2021 年 4～6 月は前年の反動が表れているものの、消費活動が行われている様子が見えつつあります(図表 4)。日本銀行の「生活意識に関するアンケート調査」の「現在の暮らし向き(ゆとり)」をみると、2021 年 9 月調査では「ゆとりが出てきた」の割合が増加、「ゆとりがなくなってきた」の割合が減少しており、生活のゆとり意識は徐々にではあるものの改善傾向となっています(図表 5)。

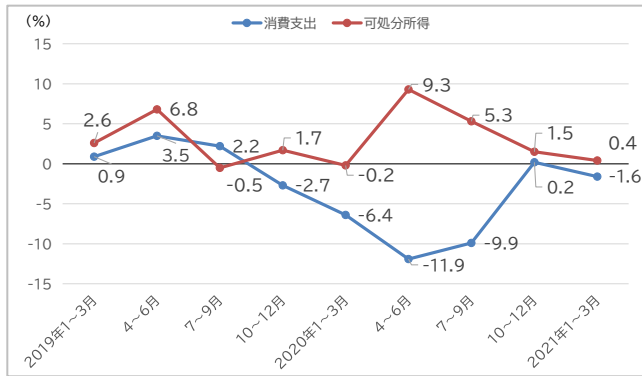
一方、懸念材料としては、様々な分野において商品・原材料の価格が軒並み上昇していることがあげられます。一例として、ガソリン価格は 2021 年 11 月 29 日時点で給油所小売価格が 168 円を超えました(図表 6)。この影響を抑えるため、日本やアメリカでは石油の国家備蓄の一部を放出する対策を施し、価格の低下及び安定化を図っています。

JTB が実施したアンケートで、自身の生活と年末年始の旅行について当てはまる状況を聞いたところ、自身の生活では「昨年より収入が減った(14.4%)」が 2020 年度調査(19.1%)と比べるとやや減少しました。一方で、「将来が不安なので、貯蓄や資産運用を増やしている(14.8%)」は同調査(11.7%)を上回っており、将来の不安に備えた対応も着実に進んでいる様子が見えつつあります。年末年始の旅行については、「昨年より長く休みが取れそうだ(4.7%)」が 2020 年度調査(5.8%)よりやや減少しており、日並びの悪さもあり、長期間の休みがとりにくい状況が考えられます。さらに「来年は旅行できそうにないので、今年は旅行に行く(2.8%)」が同調査(1.9%)より増加し、先行き不透明ながらも旅行への意欲が見られます。

また、「昨年よりお金をかけて豪華に過ごす予定(3.4%)」は 2020 年度調査(2.3%)よりも増加、逆に「昨年よりお金をかけずに質素に過ごす予定(13.8%)」は 22.1%から 8.3 ポイント減少しました(図表 7)。

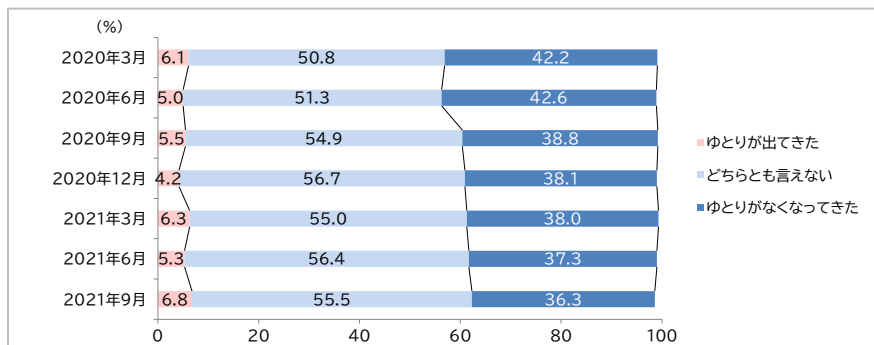
「今後1年間の旅行の支出に対する意向」について、「コロナ前(2019 年以前)」と「コロナ禍(2020 年以降)」とそれぞれ比較して聞きました。「コロナ前(2019 年以前)より支出を増やしたい」と回答した人は 11.2%、「コロナ禍(2020 年以降)より旅行支出を増やしたい」は 17.3%であり、感染拡大が始まった昨年よりは支出を増やしたいと考える人の割合が高い結果となりました(図表 8)。

(図表 4) 勤労者世帯の消費支出と可処分所得の対前年同期実質増減率の推移(総世帯)



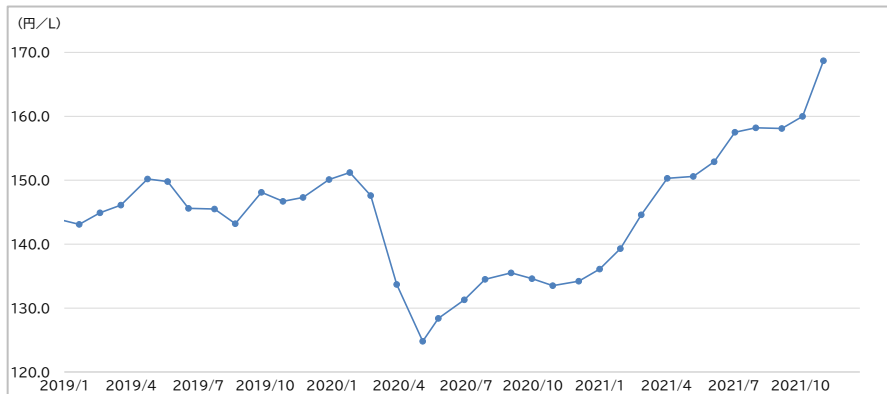
総務省「家計調査」をもとに JTB 総合研究所作成

(図表 5) 現在の暮らし向き(2020年3月~2021年9月)



日本銀行「生活意識に関するアンケート調査」をもとに JTB 総合研究所作成

(図表 6) ガソリン単価(レギュラー)の推移



経済産業省資源エネルギー庁「石油製品価格調査」をもとに JTB 総合研究所作成

(図表 7) 今の自身の生活と年末年始について (複数回答 N=10,000)

	(%)	【参考】
<自身の生活について>		
将来が不安なので、貯蓄や資産運用を増やしている	14.8	2021年 11.7
将来に不安はないので貯蓄や資産運用は増やしていない	3.8	2020年 4.5
昨年より収入が増えた	4.0	3.3
昨年より収入が減った	14.4	19.1
<年末年始について>		
昨年より長く休みが取れそうだ	4.7	5.8
昨年より休みが取れそうにない	6.5	6.7
昨年よりお金をかけて豪華に過ごす予定	3.4	2.3
昨年よりお金をかけず質素に過ごす予定	13.8	22.1
来年は旅行出来そうにないので、今年は旅行に行く	2.8	1.9
来年は旅行に行く予定なので、今年は旅行に行かない	10.6	13.6

(図表 8) 今後 1 年間の旅行の支出に対する意向 (単一回答 N=10,000)

		2020年以降(コロナ禍) と比較した支出意向	2019年以前(コロナ前) と比較した支出意向	【参考】 2020/2021 年未年始時点
支出を増やしたい		17.3	11.2	8.4
同 程 度	同程度(合算)	48.9	54.5	47.2
	単価を減らし回数を増やす	8.0	8.3	6.3
	単価を増やし回数を減らす	9.8	9.8	10.0
	単価も回数も同程度	31.1	36.4	30.9
支出を減らしたい		33.8	34.3	44.4

* アンケート結果は無回答があるため単一回答でも合計 100%にはなりません。

<2021 年～2022 年 年未年始の国内旅行動向予測>

3. 年未年始の旅行意向

一般的には 6 連休。旅行意欲は回復傾向も、今年の日並びは長期休暇にはなりにくい「旅行に行く(行く/たぶん行くの合算値)」人は 16.9%と 2.1 ポイント前年から上昇

2021年12月15日～2022年1月15日の日並び

日	月	火	水	木	金	土
			12月15日	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1月1日
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15

今年の年未年始の一般的な休暇は、12月28日(火)を仕事納めとすると、1月3日(月)までの6連休になります。その前後は平日が続くため休みが取りにくく、例年より長期休暇になりにくい日並びになります。

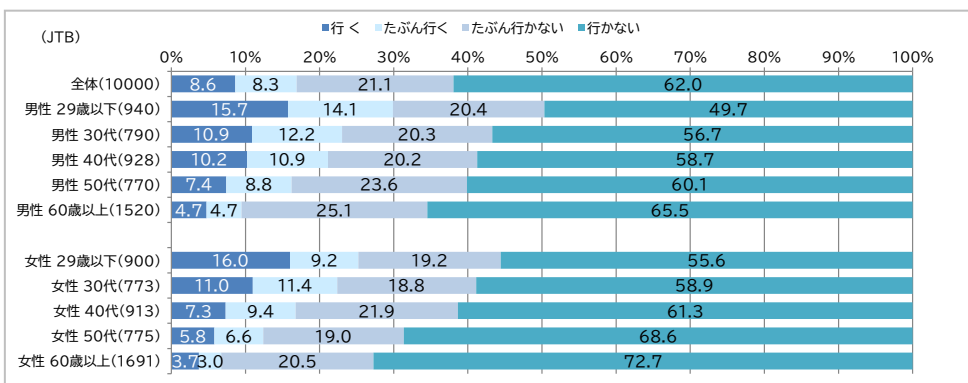
前述の事前調査で、年未年始期間中(2021年12月23日～2022年1月3日)の帰省を含めた旅行意向を聞きました。期間中に旅行に行くかどうかについては、「行く(8.6%)」および「たぶん行く(8.3%)」と回答した人の合計は16.9%となり、前年より2.1ポイント上昇しました(図表9)。2019年の調査では20.0%が「行く」と回答していることから、緊急事態宣言が解除になり、新規感染者は低水準が続いていますが、旅行意欲がコロナ禍前の水準まで一気に高まった状態ではないことが分かります。性年代別でみると、男女とも若い年代ほど旅行意向が高い結果でした。「行く(“行く”と“たぶん行く”の合計)」は男性29歳以下が最も高く29.8%、女性29歳以下(25.2%)、男性30代(23.1%)と続きました。一方、旅行意向が最も低かったのは男女60歳以上(男性9.4%、女性6.7%)でした(図表10)。

事前調査で「年未年始に国内旅行に行く/たぶん行く」と回答した人のうち1,498人に旅行の目的や動機を聞いたところ、上位から「毎年恒例なので(36.6%)」「家族一緒に過ごすため(33.2%)」「実家で親族や友人と過ごすため(29.4%)」となりました(図表11)。それぞれの目的や動機の割合は前年と比較すると総じて減少していますが、これは今年の年未年始に旅行に行く人が増え、目的が多様化し、分散したことが考えられます。その一方で「自然や風景を楽しみたいので(12.6%)」だけは前年より0.9ポイント上昇していました。また、性年代別でみると、「実家で親族や友人と過ごすため」は前年に比べ女性の上昇率が高く、特に女性50代は前年より5.2ポイント、女性40代は2.7ポイント上昇していました。これは、帰省しコロナ禍で自由に会えない高齢の親や友人と過ごしたい気持ちの表れといえそうです。一方、男性20代は5.6ポイント減少しました(図表は省略)。今年の年未年始の旅行はこれまでコロナ禍で帰省を控えていた人たちにとって、親族や友人と過ごす大切な機会であるということがいえそうです。

(図表 9) 年末年始の旅行動向 (2021/12/23~2022/1/3 単一回答 N=10,000)

	2021年 (N=10,000)	2020年 (N=20,000)	昨年差	2019年 (N=20,000)
行く	16.9	14.8	+2.1	20.0
行く	8.6	7.9	+0.7	11.1
たぶん行く	8.3	6.9	+1.4	8.9
行かない	83.1	85.1	▲2.0	80.1
たぶん行かない	21.1	18.4	+2.7	21.2
行かない	62.0	66.7	▲4.7	58.9

(図表 10) 年末年始の旅行意向 (2021/12/23~2022/1/3 性年代別 単一回答 N=10,000)



(図表 11) 年末年始の旅行の目的や動機 (複数回答 N=1,498)

	%	昨年差	昨年%
毎年恒例なので	36.6	▲6.9	43.5
家族一緒に過ごすため	33.2	▲4.4	37.6
実家で親族や友人と過ごすため	29.4	▲0.6	30.0
温泉やリゾートでゆっくり過ごしたいので	20.9	▲2.1	23.0
美味しいものを味わいたいので	14.8	▲1.3	16.1
この時期しか一緒に旅行出来ないから	13.1	▲0.8	13.9
自然や風景を楽しみたいので	12.6	+0.9	11.7
正月の情緒や気分を味わいたいので	11.7	▲1.5	13.2
この時期しか長期の旅行が出来ないから	8.4	▲1.1	9.5
家に居てもつまらないので	7.5	▲1.2	8.7

4. 国内旅行人数は 1,800 万人(実績推計 19 年比▲38.5%、同 20 年比+80.0%) 国内旅行平均費用は 32,000 円(実績推計 19 年比 ±0%、同 20 年比▲3.0%)

年末年始期間(2021 年 12 月 23 日~2022 年 1 月 3 日)の国内の旅行動向については、各種経済指標、交通機関各社の動き、宿泊施設の予約状況、各種定点意識調査などをもとに算出し、1,800 万人(19 年比▲38.5%、20 年比+80.0%)と推計します。また、国内旅行平均費用は 32,000 円(19 年比 ±0%、20 年比▲3.0%)、総額 5,760 億円と推計します。旅行費用については、カレンダーの日並びおよび新型コロナによる平均泊数の低下が影響しています。帰省を含むアンケート調査では出発日のピークは 30 日です(図表 12)。一方で JTB の宿泊を伴う企画旅行商品の予約状況ではピークは 31 日となっています。具体的な傾向については次章以降で述べる通りです。

(図表 12) 旅行の出発日 (単一回答 N=1,498)

	%	昨年差
12/22 (水) 以前	12.8	+4.8
12/23 (木)	2.3	+0.2
12/24 (金)	5.5	+2.5
12/25 (土)	8.2	+2.4
12/26 (日)	4.4	▲6.8
12/27 (月)	4.9	▲2.5
12/28 (火)	6.8	▲1.6
12/29 (水)	12.2	+0.4
12/30 (木)	15.7	+0.6
12/31 (金)	12.6	▲0.8
1/1 (土)	6.0	▲0.6
1/2 (日)	5.5	+0.6
1/3 (月)	3.1	+0.6

5. 地域観光事業支援(県民割等)も活用した都道府県内・近隣県への「エリアツーリズム(※)」が主流

1泊2日が5.5ポイント上昇の36.3%と、短期旅行が増える 旅行者が全体的に増え、同行者は昨年の家族中心から友人・知人にも広がる

旅行の内容について詳細を聞きました。

旅行日数:「1泊2日」が36.3%と最も多く、前年より5.5ポイント上昇しました。次いで「2泊3日(26.3%、前年比+1.1ポイント)」「3泊4日(15.2%、前年比▲2.2ポイント)」となりました。3泊以上は昨年より割合が減少し、日並びの影響による短期傾向を反映しています。(図表13)。

同行者:「家族連れ」が56.7%と半数以上を占めていますが、昨年からは4.9ポイント減少しました。新型コロナウイルスの感染拡大が比較的落ち着き、旅行に行く人が増え、同行者が昨年の家族中心から友人・知人などにも広がったからと考えられます。家族の内訳では、「子供連れ(中学生まで)」は前年と同じですが、「夫婦のみ(18.4%)」が昨年より4.5ポイント下がりました。「ひとり(22.9%)」は昨年より2.2ポイント上昇しましたが、コロナ禍前の2019年(17.0%)からは5.9ポイント増加しており、感染防止や周囲への配慮などもあってか、帰省を含む、ひとりで旅行に行く人は増え続けています(図表14)。

旅行先:最も割合が高かったのは「関東(22.2%、前年比+0.6ポイント)」、次が「近畿(17.6%、前年比+1.3ポイント)」と、いずれも前年より高い結果でした。今年の、短期間の旅行の増加を反映し、「北海道(5.5%、前年比▲1.6ポイント)」および「沖縄(2.1%、前年比▲1.7%)」は昨年より低くなりました。昨年より高い旅行先は「甲信越」「東北」「北陸」「近畿」です(図表15)。その地域を選んだ理由としては「帰省先なので(42.7%)」「行きたい場所があるので(34.3%)」「泊まりたい宿泊施設があるので(19.0%)」の順になりました(図表16)。居住地別に旅行先を見ると、「東北」「近畿」「九州」においては居住地域内での旅行需要が高まっています(図表17)。

一人当たりの旅行費用:「1万円～2万円未満(25.5%、前年比+2.2ポイント)」が最も多く、次いで「1万円未満(21.7%、前年比+0.2ポイント)」「2万円～3万円未満(18.2%、前年比▲1.0ポイント)」となりました。3万円未満が全体の65.4%を占めています(図表18)。

利用交通機関:例年過半数を占める「乗用車」ですが、今年は54.7%で前年から1.6ポイント減少しました。2020年の年末年始は新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していたこともあり、乗用車を選択する人がコロナ禍前の2019年(52.7%)から2.0ポイント上昇していました。今年はそれでもコロナ禍前より高い状態です。現在、ガソリンの価格が上昇しているため、今後の自動車利用への影響は広がるかもしれません。また全体的には公共交通機関の利用が増え、「JR新幹線(24.2%、前年比+3.5ポイント)」「JR在来線・私鉄(22.6%、前年比+1.2ポイント)」「高速/長距離バス(7.7%、前年比+1.3ポイント)」となりました。航空機では格安航空会社(LCC)は昨年より増加したものの、従来の航空会社は短期の旅行が増えたこともあり減少する結果となりました(図表19)。

利用宿泊施設:「ホテル」が34.6%と最も多く、次いで「夫や妻の実家(23.9%)」「旅館(18.7%)」となりました。「ホテル」は前年より1.3ポイント減少しましたが、「旅館」は0.4ポイント上昇しました。旅館は2020年にコロナ禍以前の2019年より3.9ポイント上昇していますので、都市部のホテル滞在と比べ地方の旅館滞在を志向する人が増えていると考えられます(図表20)。

※JTBCでは「エリアツーリズム」を地元(居住地)にとどまらず、都道府県内及び近隣県の広域にわたり、正しい感染防止対策を取ったうえで楽しむ旅行と定義しています。

(図表 13)旅行日数(単一回答 N=1,498) (図表 14) 旅行の同行者 (単一回答 N=1,498)

	%	昨年差
1泊2日	36.3	+5.5
2泊3日	26.3	+1.1
3泊4日	15.2	▲ 2.2
4泊5日	7.7	▲ 1.1
5泊6日	5.3	▲ 0.9
6泊7日	2.9	▲ 0.2
7泊8日	1.9	▲ 1.0
8泊以上	4.3	▲ 1.2

	%	昨年差
家族づれ	56.7	▲ 4.9
子供づれ(中学生まで)	25.6	▲ 0.0
夫婦のみ	18.4	▲ 4.5
それ以外(母娘、三世代等)	12.8	▲ 0.2
家族と友人・知人	6.0	+0.3
友人・知人	11.5	+1.2
団体(職場など)	0.7	+0.3
ひとり	22.9	+2.2
その他	2.1	+0.7

(図表 15)旅行先(単一回答 N=1,498) (図表 16)その方面を選んだ理由 (複数回答 N=1,498)

	%	昨年差
北海道	5.5	▲ 1.6
東北	8.0	+1.5
関東	22.2	+0.6
甲信越	8.4	+1.7
北陸	4.0	+0.3
東海	12.0	▲ 0.2
近畿	17.6	+1.3
中国	6.0	▲ 0.2
四国	3.7	▲ 0.4
九州	10.5	▲ 1.4
沖縄	2.1	▲ 1.7

	%	昨年差
帰省先なので	42.7	▲ 2.0
行きたい場所があるので	34.3	▲ 1.0
泊りたい宿泊施設があるので	19.0	▲ 2.1
自家用車やレンタカーで行ける場所なので	11.0	▲ 1.4
友人・知人など会いたい人が住んでいるので	8.0	+0.1
自然が多いなど、3密を回避しやすい地域なので	7.1	▲ 0.9
手頃な値段のツアーや商品などをみつけたので	6.9	+0.5
その土地で今流行っているものを体験したいので	4.3	+0.9
参加するイベントの開催地があるので	3.9	+1.4
その他	3.7	▲ 0.4
新型コロナウイルスの感染者数が少ない地域なので	3.2	▲ 1.2
家族の赴任先なので	2.0	+0.1
災害からの復興を支援したいと思ったので	1.3	▲ 0.4

(図表 17)回答者の居住地域別 旅行先(20年11月・21年11月調査比較)(単一回答 N=1,498)

(JTB) (%)		2021/2022年 年末年始の旅行先									
		北海道	東北	関東	甲信越 (山梨、長野、 新潟)	北陸 (富山、石川、 福井)	東海 (岐阜、静岡、 愛知、三重)	近畿	中国 四国	九州	沖縄 (奄美群島・ 屋久島含む)
全体	2020年(N=1697)	7.1	6.5	21.6	6.7	3.7	12.2	16.3	10.3	11.9	3.8
	2021年(N=1498)	5.5	8.0	22.2	8.4	4.0	12.0	17.6	9.7	10.5	2.1
居住地域	北海道	84.5	0.0	6.9	1.7	0.0	1.7	1.7	0.0	1.7	1.7
		73.9	4.3	8.7	0.0	0.0	2.2	6.5	2.2	2.2	0.0
	東北地方	2.5	63.8	16.3	2.5	2.5	3.8	3.8	2.5	0.0	2.5
		5.1	65.4	14.1	1.3	3.8	2.6	3.8	1.3	0.0	2.6
	関東地方	6.2	6.7	39.0	7.8	3.1	10.6	11.3	4.4	7.6	3.3
		3.8	8.9	36.6	13.4	2.8	11.2	10.5	5.2	5.5	2.0
	中部地方	3.7	2.6	10.3	14.3	6.3	32.0	17.6	3.7	5.9	3.7
	3.8	3.1	18.3	12.2	9.5	29.8	12.2	5.7	3.1	2.3	
近畿地方	2.4	0.9	8.8	3.4	6.1	10.4	37.2	15.9	9.8	5.2	
	2.7	1.7	12.4	3.4	4.7	9.7	45.6	13.1	4.0	2.7	
中国・四国地方	4.2	0.8	5.0	2.5	0.0	4.2	13.3	55.8	12.5	1.7	
	2.9	0.0	8.8	2.0	1.0	1.0	21.6	49.0	12.7	1.0	
九州地方	1.5	0.8	9.0	1.5	0.8	1.5	5.3	9.8	63.2	6.8	
	0.9	0.9	4.4	0.9	0.0	1.8	3.5	7.0	78.9	1.8	

(図表 18)一人当たり旅行費用(単一回答 N=1,498)(図表 19)利用交通機関(複数回答 N=1,498)

	%	昨年差
1万円未満	21.7	+0.2
1万円~2万円未満	25.5	+2.2
2万円~3万円未満	18.2	▲ 1.0
3万円~4万円未満	9.0	+0.5
4万円~5万円未満	10.6	▲ 0.6
5万円~7万円未満	5.6	+0.8
7万円~10万円未満	5.1	▲ 1.7
10万円~15万円未満	2.3	▲ 0.4
15万円~20万円未満	1.5	+0.5
20万円~30万円未満	0.1	▲ 0.6
30万円~40万円未満	0.1	-
40万円以上	0.3	+0.1

	%	昨年差
乗用車・レンタカー	54.7	▲ 1.6
鉄道		
JR新幹線	24.2	+3.5
JR在来線・私鉄	22.6	+1.2
航空機		
従来の航空会社	13.1	▲ 2.5
格安航空会社(LCC)	4.4	+0.8
高速/長距離バス	7.7	+1.3
貸切バス	1.7	+0.8
フェリー・船舶	1.5	▲ 0.4

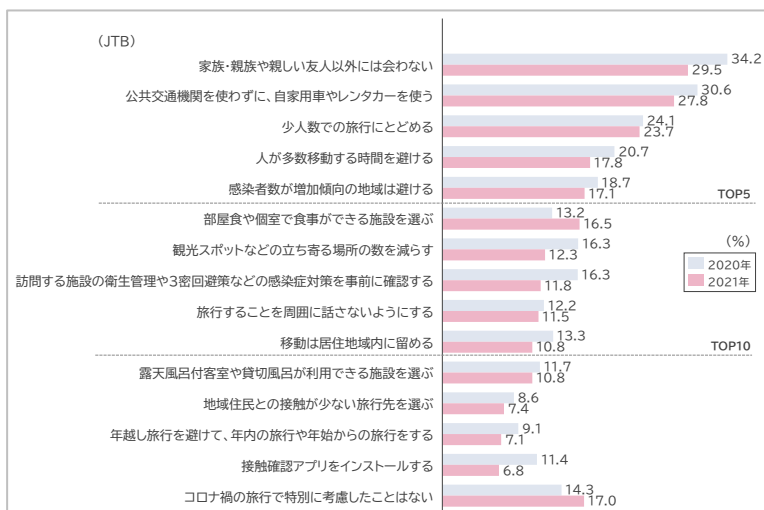
(図表 20)利用宿泊施設 (複数回答 N=1,498)

	%	昨年差
旅館・ホテル・民宿・ペンション	56.2	▲ 0.3
ホテル	34.6	▲ 1.3
旅館	18.7	+0.4
民宿・ペンション・公営施設等	2.9	+0.6
実家	36.9	▲ 1.7
夫や妻の実家	23.9	▲ 0.1
独身で親元に戻る	11.2	▲ 1.3
単身赴任で家に戻る	1.8	▲ 0.3
友人・知人の家	2.7	+0.6
その他	4.1	+1.4

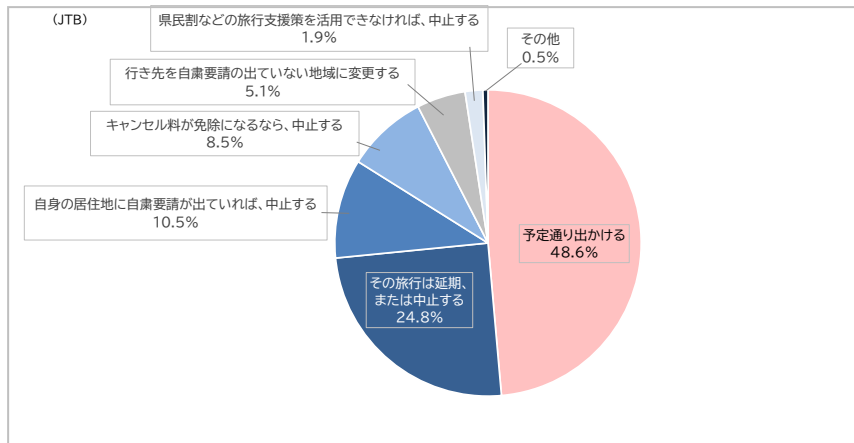
**6. 今年の年末年始の旅行で特別に考慮したことは昨年より総じて少なくなる傾向だが、「部屋食や個室で食事ができる施設を選ぶ」は前年より 3.3 ポイント上昇
「家族・親族や親しい友人以外には会わない」は前年から 4.7 ポイント減少**

9 月末で緊急事態宣言が解除になり、低水準の感染状況で年末年始を迎えようとしています。海外では感染再拡大が深刻な地域も多く、日本国内も先行きは不透明です。アンケートでは、新型コロナの現状を踏まえて「年末年始の旅行で特別に考慮したこと」について昨年と同様に聞きました。最も高かったのが「家族・親族や親しい友人以外には会わない(29.5%)」で、「公共交通機関を使わずに、自家用車やレンタカーを使う(27.8%)」、「少人数の旅行にとどめる(23.7%)」と続きました。全体ではほとんどの項目で昨年よりポイントを下げる結果となり、「家族・親族や親しい友人以外には会わない」は前年から 4.7 ポイント減少しました。一方で「部屋食や個室で食事ができる施設を選ぶ(16.5%)」は前年から 3.3 ポイント上昇する結果となり、また「少人数での旅行にとどめる(23.7%、前年比▲0.4 ポイント)」および「旅行することを周囲に話さないようにする(11.5%、前年比▲0.7 ポイント)」に大きな減少は見られませんでした。以上から、感染拡大がある程度落ち着き旅行しやすい雰囲気ではあるものの、感染防止に留意し、近い関係の人と少人数で、居住地域および近隣エリアにて短期間という「エリアツーリズム」型が増えてきたといっておよそです(図表 21)。次に、今後、新型コロナの感染者数が増加し、国や自治体から移動の自粛要請や飲食店の営業時間短縮要請が出された場合、旅行の予定をどうするかを聞きました。結果は「予定通り出かける」が 48.6%と最も多く、「その旅行は延期または中止する(24.8%)」が続きました(図表 22)。

(図表 21)今年の年末年始の旅行において特別に考慮したこと(前年との比較)(複数回答 N=1,498)



(図表 22) 今後移動自粛要請が出た場合の年末年始旅行の対応について (単一回答 N=1,498)



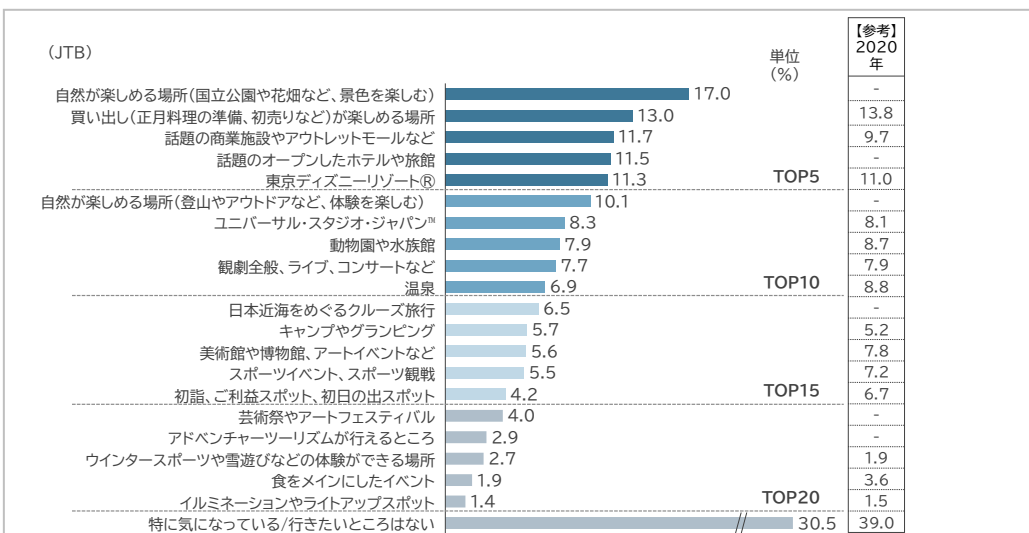
7. 今年の年末年始で気になるところは、「自然が楽しめる場所」「買い出しが楽しめる場所」「話題の商業施設やアウトレットモール」も人気

今年の年末年始に旅行や日帰りで出かける場所として、どのような所が気になっているか聞いてみました。「自然が楽しめる場所(国立公園や花畑など景観を楽しむ)」が 17.0%と最も高く、「自然を楽しめる場所(自然やアウトドアなど体験を楽しむ)」も 10.1%あり、自然に触れたいという意向が高くなりました。「買い出しが楽しめる場所(13.0%)」「話題の商業施設やアウトレットモール(11.7%)」「東京ディズニーリゾート®(11.3%)」も昨年に引き続き人気上位となりました(図表 23)。

JTB の宿泊・国内企画旅行商品の予約状況を見ると、地域観光事業支援の県民割などが多くの自治体で発表されており、感染対策を実施しながらも旅行への期待感が高まり前年同期比 8 割程度(12 月 7 日時点)となっています。

旅行先としては、県民割などの実施地域が多いことから、居住地域内および近隣エリアへの旅行を選ぶ傾向が顕著です。昨年同様、車でアクセスできる温泉地や自然・景勝地への関心が高く、部屋食や貸切風呂など感染防止対策とサービスを提供する高価格帯の小規模旅館や自然に近い海や山岳地域にあるリゾートホテルが好調です。一方、鉄道などの公共交通機関を利用し、近隣県へ足を延ばすケースや、首都圏を中心とする各種イベントの再開に伴い、ホテル需要も増加しています。

(図表 23) 今年の年末年始に出かける場所として気になるところ(日帰り含む)(複数回答 N=1,498)



(図表 24)2001 年～2021 年 年末年始(12/23～1/3)発表数値の推移 *調査開始は 1969 年

	旅行人数(万人)			一人あたりの旅行費用(円)		総消費額 (億円)	旅行日数 (日)
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行		
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
2001/2002	3,023	2,973	50	37,216	216,927	12,148	3.7
	101.1	101.7	76.3	101.2	97.2	99.5	0.2
2002/2003	2,925	2,865	60	35,390	225,170	11,494	3.9
	96.8	96.4	120.2	95.1	103.8	94.6	0.2
2003/2004	2,930	2,871	59	34,576	224,940	11,245	3.7
	100.1	100.2	97.5	97.7	99.9	97.8	▲0.2
2004/2005	2,936	2,874	62	34,472	195,923	11,120	3.6
	100.2	100.1	105.6	99.7	87.1	98.9	▲0.1
2005/2006	2,993	2,930	63	34,093	199,449	11,243	3.8
	102.0	102.0	101.5	98.9	101.8	101.1	0.2
2006/2007	3,005	2,940	64	34,160	210,510	11,397	3.8
	100.4	100.3	102.4	100.2	105.5	101.4	±0.0
2007/2008	2,991	2,930	61	34,210	217,700	11,348	3.9
	99.5	99.7	93.8	100.1	103.4	99.6	0.1
2008/2009	2,982	2,923	59	33,610	227,400	11,165	3.7
	99.7	99.8	96.9	98.2	104.5	98.4	▲0.2
2009/2010	2,916	2,859	56	32,330	194,400	10,338	3.6
	97.8	97.8	95.6	96.2	85.5	92.6	▲0.1
2010/2011	2,974	2,908	57	31,140	203,100	10,324	3.5
	102.0	101.7	101.0	96.3	104.5	99.9	▲0.1
2011/2012	2,965	2,899	66	30,670	201,800	10,214	3.6
	99.7	99.7	115.1	98.5	99.4	98.9	0.1
2012/2013	2,993	2,925	68	30,800	207,000	10,418	3.8
	100.9	100.9	104.0	100.4	102.6	102.0	0.2
2013/2014	3,053	2,983	70	32,000	217,000	11,063	3.8
	102.0	102.0	102.6	100.4	104.8	106.2	±0.0
2014/2015	3,053	2,987	66	32,000	222,000	11,014	3.8
	100.0	100.1	93.8	100.0	102.3	99.6	±0.0
2015/2016	3,059	2,996	63	34,200	217,000	11,603	3.8
	100.2	100.3	95.3	107.0	97.7	105.3	±0.0
2016/2017	2,999	2,930	69	30,900	207,000	10,472	3.6
	98.0	97.8	109.6	90.4	95.4	90.3	▲0.2
2017/2018	3,027	2,957	70	31,900	206,000	10,883	3.6
	101.0	100.9	102.8	103.2	99.5	103.9	±0.0
2018/2019	3,065	2,989	76	34,000	204,000	11,714	3.8
	101.3	101.1	108.0	106.6	99.0	107.6	0.2
2019/2020	3,009	2,927	83	32,000	202,000	11,036	3.6
	98.2	97.9	108.8	94.1	99.0	94.2	▲0.2
2020/2021	1,000	1,000	1.5	33,000	-	3,300	3.7
		34.2	1.8	103.1		35.2*	0.1
2021/2022	1,800	1,800	-	32,000	-	5,760	3.3
		180.0		97.0		174.5	▲0.4

*調査開始は1969年。海外旅行人数は実績値。

*平均費用については、1993年より推計。2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。

*国内旅行人数は推計値で、2003年以前は動向結果により前年の発表数値から一部修正。

*2020/2021の総消費額に関しては、国内旅行のみの旅行消費額で前年比を算出。